

「いちご色」の世界が広がる 大人も楽しめる文学館



スタジオジブリ制作の長編アニメ映画『魔女の宅急便』の原作者・**角野栄子**（かどのえいこ）さんが館長をつとめる「魔法の文学館」が、東京都江戸川区にオープン。角野さんといえば、トレードマークの個性的な眼鏡とカラフルなファッション、何よりご本人のキュートなキャラクターが人気です。

江戸川区は、角野さんが幼少期から20代前半までを過ごした思い出の地。旧江戸川を一望できる、小高い丘の上に建てられた文学館は、世界的に有名な建築家・隈研吾さんの設計です。丘を削ることなく、傾斜をそのまま生かし、周辺の自然と調和させたデザインは限さんならではの。この丘は「展望の丘テラス」とよばれ、借りた本を持ち出し、木陰で読書なんて、優雅なひとときを過ごすこともできます。

建物の中は、外の丘とそのままつながっているような独特のデザイン。壁や天井、書棚などは角野さんのテーマカラーである「いちご色」で統一され、童心に返ったようにワクワクさせてくれます。よく見ると「いちご色」には3色あり、時間帯や太陽の光の差し込み具合によっては、落ち着いた雰囲気にもなる、なんとも魅力的な色でした。

1階は、『魔女の宅急便』に登場する「コロコの町」をイメージ



館長の角野栄子さん

ジにした世界。主人公のキキと黒猫のジ以外にも、角野さんが生んだ様々なキャラクターがプロジェクトエクシオンマップで出迎え、本の世界へと誘ってくれます。

2階にもライブラリーが続き、座ったり、寝転んだり、隠れ家のようなスペースで、テラスで……、どこで何を読むのも自由。児童書を中心に、大人向けの本もありますので、親子一緒に読書を楽しめます。

また、まだ本を読めない小さな子どもも退屈しないよう、館内には様々な仕掛けがあるほか、角野さんのアトリエを再現したエリア、人気キャラクターが登場する「黒猫シアター」、企画展など読書以外のコンテンツもたくさん。カフェのメニューや、オリジナルグッズのかわいさにも胸がトキメキました。角野作品のファンならずとも、「いちご色」の世界に元気をもらえること間違いなし！ぜひ、訪れてみてくださいね。



芝生の上で読書もできる丘上の文学館

魔法の文学館（江戸川区角野栄子児童文学館）

※営業時間、アクセスなどの詳細は、2ページをご参照ください。